Ⅲ　活動記録

1　展覧会

・出品リストについては、他館所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

特別展「もの想う美人 ―明橋コレクションでたどる女性美―」



女性の美しさを描く絵を意味する「美人画」という言葉は明治 40 年代に定着した。だが、浮世絵師・喜多川歌麿に代表されるように、それ以前から女性の美を題材とした作品は人々に親しまれ、遊女や町娘を描いた江戸後期の美人浮世絵は市井の人々の人気を得ていた。

明治以降は、日本画家の上村松園や鏑木清方らによりこの分野が確立され、伊東深水や小早川清に受け継がれていく。また、肉筆画に限らず、美人口絵やポスターなど様々な形で「美人画」が制作された。

明橋コレクションは、江戸から昭和にかけての珠玉の美人画で構成され、蒐集作品は多岐にわたる。なかでも、明治後期以降の美人画には女性の内面を表す＜もの想う＞仕草や表情がみられ、時代にあわせて移ろう多様な女性表現の中にも相通じる美しさがある。

本特別展では、明橋コレクションを中心に＜もの想う＞女性の美しさと、その表現の変遷を紹介した。

会期　令和 7 年 4 月 17 日(木)～5 月 21 日(水)（開館日数:31 日）

総入館者数 1,814 人(一日平均:59 人)

関連事業

市民講座　【開催日】5 月 3 日(土・祝)

国際博物館の日　【開催日】5 月 18 日(日)　開館 15 周年記念図録を先着 50 名様に贈呈

日本画ワークショップ「岩絵具を使って、日本画を描いてみよう！」【開催日】5 月 25 日(日)

「鎌倉文化ゾーン　小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」
【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日(土)～令和 8 年 3 月 31 日(火)

配布資料・刊行物

特別展「もの想う美人 ―明橋コレクションでたどる女性美―」解説書(無料配布)
(「「もの想う美人」の系譜」、「明橋コレクションのこれまで」、作品・作家解説　他)

主な紹介記事

「特別展 もの想う美人 ―明橋コレクションでたどる女性美―」(鎌倉 TODAY)　他　5 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
鏑木清方「白梅かをる」	昭和 7 年	絹本着色・軸	128.0×41.5	明橋コレクション
上村松園「桜可里」	昭和 10-24 年頃	絹本着色・軸	26.7×36.5	同上
伊東深水「楽屋の水谷八重子」	昭和 5 年頃	絹本着色・軸	46.7×36.0	同上
〃　「立秋」	昭和 15-20 年頃	紙本着色・軸	124.2×33.2	同上

東郷青児「婦人像」	不詳	水彩色紙・額	27.0×24.0	同上
喜多川歌麿「住の江の古歌」	寛政 9 年頃	木版摺	38.7×25.6	同上
〃「美人花合 兵庫屋内 花妻」	寛政 6 年頃	木版摺	36.5×24.3	同上
〃「当時全盛美人揃 玉屋内小紫」	寛政 6 年頃	木版摺	38.7×24.6	同上
〃「登城」	寛政年間	木版摺	37.4×23.9	同上
〃「風流五葉の松」	寛政年間	木版摺	37.4×24.8	同上
〃「難波屋おきたと仁王の枕引き」	寛政 6 年頃	木版摺	25.0×37.6	同上
〃「婦人泊り客之図」	寛政 7 年頃	木版摺(三枚続)	各 37.0×24.2	同上
菊川英山「風流子宝六歌僊 僧正遍照」	文化末-文政前期	木版摺	38.2×25.6	同上
〃「仇競浮世絵姿 相合傘屋雨濡事」	文化末-文政初期	木版摺	36.1×25.2	同上
歌川国芳「賢女烈婦傳 白拍子静」	天保末-弘化期	木版摺	35.9×24.5	同上
歌川国貞「江戸名所百人美女 よし町」	安政 5 年	木版摺	35.9×24.6	同上
月岡芳年「古今日女鑑 明智光秀妻」	明治 8-9 年頃	木版摺	33.0×23.7	同上
尾形月耕「婦人風俗尽 つぼね下り」	明治 24 年	木版摺	32.6×22.2	同上
〃「婦人風俗尽 雛祭」	明治 31 年	木版摺	32.6×22.4	同上
楊州周延「時代かゞみ 慶長の頃」	明治 29 年	木版摺	35.5×23.7	同上
〃「時代かゞみ 文化の頃」	明治 29 年	木版摺	35.2×22.5	同上
〃「真美人 十」	明治 30 年	木版摺	30.2×21.2	同上
水野年方 坪谷善四郎著『日本女禮式大全』上巻口絵	明治 30 年	木版口絵	21.8×29.4	同上
〃「傾城」『文芸倶楽部』口絵	明治 33 年	木版口絵	22.0×28.0	同上
〃 三宅青軒著「寂光院」『文芸倶楽部』口絵	明治 34 年	木版口絵	22.1×29.3	同上
山本昇雲「今姿 高砂や この浦風に」	明治 39 年	木版摺	35.2×24.1	同上
〃「今すかた 汐干」	明治 39 年	木版摺	27.5×19.3	同上
〃「いますかた つるし柿」	明治 39 年	木版摺	37.5×25.5	同上
〃「いま姿 おどろき」	明治 39 年	木版摺	35.3×24.7	同上
〃「いま姿 寒牡丹」	明治 39 年	木版摺	37.1×25.2	同上
〃「いま姿 ひなまつり」	明治 40 年	木版摺	37.5×25.0	同上
〃「今すかた おまいり」	明治 42 年	木版摺	27.5×19.5	同上
武内桂舟「小春日和」『文芸倶楽部』口絵	明治 43 年	木版口絵	29.8×22.0	同上
竹下夢二「BEPPU『山へよする』挿絵」	大正 8 年	木版摺	12.3×8.1	同上
川瀬巴水「ゆく春」	大正 14 年	木版摺	37.0×24.3	同上
伊東深水 「螢」『現代美人集 第二輯』のうち	昭和 9 年	木版摺	40.7×25.5	同上
小島功「水辺有情 待ち人」	平成初期	木版摺	31.6×23.0	同上

【所蔵品】

「一葉女史の墓」「虫の音」「ためさるゝ日(右幅)」「夏すかた」「山百合」「襟おしろい」

水野秀方作「かへり道」 小早川清作「美人図」 山川秀峰作「美人図」

スケッチ　「菖蒲」(2 点)　　模写　「喜多川歌麿「當世踊子揃」の内 鷺娘、道成寺、三番叟」

口絵　「伽羅」「小春」「白鳥」(『文芸倶楽部』)、「浴後」(『文芸界』)、「さつき花」「さみだれ」(『少女界』)
菊池幽芳著『月魄 藤乃の巻』、小栗風葉著『恋女房』『横恋慕』
「五月雨」(『今様 夏の巻』)、「A Japanese School Girl」

付録　「紫陽花咲く頃」(『毎日新聞』)

資料　「扇に菖蒲」(風呂敷)、「紫陽花 テーブルセンター」

特別展 「美はすぐそこに ―主情派・鏑木清方―」

清方は、自身が江戸の浮世絵の画系をひいているものの、浮世絵派など絵の流派で呼ばれることに違和感を覚えていた。「派も何もいらないのだが、強ひて名づけるのだつたら、主情派とでも呼んでくれたらいいだらう」と語っている。絵を描くときも、文章を書くときも、同じ心持ちで創作に向き合った清方は、絵も文章も等しく「情緒」を託す表現であり、その出発点は「情」――何かに触れた時の感情、心の動きにあると考えていた。

市井の人々の暮らし、それも自分が慣れ親しんだ東京の下町の暮らしや、四季折々の町の風景に心ひかれた清方は、しとしとと静かに町を濡らす夜の雨や築地川の掘割沿いで暮らす人々の営みなど、身近なところに美を見出し作品に描いた。

本特別展では「美人画家」「浮世絵派」といった枠組みを超え、心ひかれる情景を切り取り描いた、“主情派・清方”と呼ぶにふさわしい作品を中心に紹介した。



会期　令和 7 年 5 月 24 日(土)～6 月 29 日(日)（開館日数:32 日）

総入館者数　2,009 人(一日平均:63 人)

関連事業

美術講演会「絵から見る明治・大正・昭和のおしゃれ」

【講師】中川春香氏(弥生美術館　学芸員)

【開催日】6 月 4 日(火)

鎌倉市川喜多映画記念館との連携事業「紫陽花の咲く記念館を巡る展示解説ツアー」

【開催日】6 月 6 日(金)、8 日(日)、12 日(木)、19 日(木)

市民講座 【開催日】6 月 21 日(土)

日本画ワークショップ「日本画材を使って、団扇に絵を描こう！」

【開催日】6 月 22 日(日)

「鎌倉文化ゾーン　小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日(土)～令和 8 年 3 月 31 日(火)

配布資料・刊行物

特別展「美はすぐそこに ―主情派・鏑木清方―」配布資料(無料配布)

(「清方が描いた場所」地図、「「主情派」が意味するもの」 他)

主な紹介記事

「美はすぐそこに ―主情派・鏑木清方」（美術の窓 6 月号） 他 6 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
待乳夜雨	大正 9 年	絹本着色・軸(双幅)	右 131.5×27.9	上原美術館蔵
			左 131.4×27.9	
木母寺夜雨	昭和 11 年	絹本着色・軸	126.6×41.9	同上
築地川※	昭和 16 年	紙本着色・折帖	各 34.0×42.5	同上
春雨	不詳	絹本着色・軸	57.3×49.0	同上
真崎祠前写景	昭和 11 年	絹本着色・軸	56.2×72.2	長谷寺観音ミュージアム蔵

※5/24～6/10 は第一図～第六図、6/11～6/29 は第五図～第十図を展示。

【所蔵品】

「教誨」「新大橋之景」「春の立場茶屋(金沢春景)」「美人と芍薬」「あじさい」「繪燈籠」「子供二人」「干物」「鰈」「ふたつあちさゐ」「金沢春雨」「年増美人」

下絵	「下町に灯のともる頃」「築地川みちしほ」「五月雨」「大橋際のむきみや」
	「下総小見川の蜆」「築地川春雨」「人形を抱く少女像」「氷店」「船住居」「明治の女」
	「物干台納涼」
スケッチ	「雨夜の星」「和船」「真崎神社」「堀切小高園」「隅田川」「木母寺 梅若山王」
	「林檎の花」「薔薇」「母子」「女性」「あやとり」「紫陽花」

「東京 築地川」(画集『東京と大阪』) 「目録」「氷店」「船住居」

『文芸倶楽部』口絵	「梅雨晴」「ひともし頃」「いで湯の夕べ」
『文芸倶楽部』表紙	「海風」
『家庭雑誌』口絵	「菜園の紅玉」
『講談雑誌』口絵	「菖蒲湯(清方画譜の五)」
『演芸倶楽部』口絵	「茶屋の二階」
『女性』口絵	「堀切(梅雨五題)」
『少女界』口絵	「玉づさ」「花の蔭」
『文芸界』	「汐干狩」(表紙)、「縁日」(表紙校正摺)、「夕涼み」(口絵)
菊池幽芳著作口絵	『百合子 中編』『筆子 初枝の巻』
村井弦斎著作口絵	『日之出島 朝日の巻 上巻』
柳川春葉著作口絵	『女一代 下巻』
小杉天外著作口絵	『落花帖 下巻』
その他口絵	「緑蔭」
泉鏡花著作挿絵	「深川浅景」(2 点)(『大東京繁盛記』より)
資料	髙島屋百貨店団扇「汀の紫陽花」
	「隅田川に古跡を探る」(『新女苑』記事)

企画展 「《朝夕安居》大解剖！ ―清方えがく、夏の暮らし―」



《朝夕安居》は、清方が戦後に手がけた名作の一つで、明治 20 年代の東京・築地付近から八丁堀界隈までの情景を、朝、昼、夕の三つの場面に分けて描いている。

芸人が住む長屋の賑やかな朝、風鈴売りが百日紅の木陰で休む昼、町内の共同の涼み台で憩う夕、4 メートルに及ぶ画巻には、市井の人々の穏やかな暮らしが細やかに表されている。

清方は、明治の初めに東京に生まれ、幼少期を下町で過ごした。画家となってからも東京に暮らし、疎開を経て戦後、68 歳で鎌倉に移り住んでからは「専ら市民の風懐に遊ぶ」と称して、心赴くままに制作した。そんな清方が「心のふるさと」と語り、もっとも心惹かれた題材が明治の東京の情景だった。

本企画展では、《朝夕安居》に描かれた街並みや風俗を詳しく紹介し、清方の記憶に宿る明治の東京を紹介した。

会期　令和 7 年 7 月 5 日(土)～8 月 24 日(日)
（開館日数:44 日）
総入館者数　2,231 人（一日平均:51 人）

関連事業

「夏休み親子鑑賞」小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布
【開催期間】7 月 5 日（土）～8 月 24 日(日)
小・中学生及び同伴者観覧無料

「子どもたちが美術館で楽しく過ごすための動画」 上映
【開催期間】7 月 5 日（土）～8 月 24 日(日)

親子ワークショップ「親子で美術館へ行ってみよう！」【開催日】7 月 30 日（水）

夏休み子ども参加プログラム・日本画「日本画材を使って、絵巻物を描いてみよう！」
【開催日】7 月 29 日（火）、31 日（木）

対話型鑑賞「日本画でおしゃべり」【開催日】8 月 2 日（土）

夏休み子ども参加プログラム・石版画「石版画の仕組みを使って、水の生き物を刷ってみよう！」
【開催日】8 月 6 日（水）、7 日（木）

中高生向け展示解説「清方の戦後の名作《朝夕安居》をじっくり見てみよう！」【開催日】7 月 27 日（日）

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」
【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日（土）～令和 8 年 3 月 31 日（火）

配布資料・刊行物

「夏休み親子鑑賞ワークシート」（小・中学生対象解説書、無料配布）

主な紹介記事

「《朝夕安居》大解剖！ ―清方えがく、夏の暮らし―」（湘南よみうり Vol.553） 他 8 件

出品作品

「朝夕安居」「朝夕安居 詞書」「寒月」「ほゝづき」「夏の柳井戸（柳乃井戸）」「五十鈴川」「ゆかた」「砂浜少女」「風景（金沢・瀬戸）」「崔承喜 二」「寅図」

下絵	「朝夕安居（昼）」「鰯」「蟹と童」「風鈴」「筆捨松」「汐路のゆきかひ」
スケッチ	「花オクラ、朝顔、露草」「向日葵」「富士浅間神社 麦藁蛇」「御殿場からの富士」」 「桔梗、トンボ」「凌霄花」「金沢風景（入道雲）」「七月の海」「川開きの夜」 「幽霊」「鰯」「皇居周辺」

『御濠端』挿画	「大手町付近」
『清方美人画譜』	「浜町河岸の秋」
『文芸倶楽部』口絵	「蚊遣の煙」「湯治場」「涼風」「涼風（下絵）」
『新小説』口絵	「空虚」
『講談雑誌』口絵	「盆提灯（清方畫譜の七）」「恋の湊（清方畫譜の八）」「秋のおとずれ」
『婦人画報』口絵	「秋の旅」
『娯楽世界』口絵	「新藁」
『女性』口絵	「笹団子」
『婦女会』口絵	「茶屋の二階」
『少女界』口絵	「海水浴」
『少年界』口絵	「とんぼつり」「多摩川の鵜飼」「月夜」
『お伽倶楽部』口絵	「しほかぜ」
『婦人世界』口絵	「星多き夜」
渡辺霞亭著作口絵	『新渦巻 光子の巻』
柳川春葉著作口絵	『母の心』
岡鬼太郎著作口絵	『春色輪屋なぎ』
その他口絵	「ほゝづき」
その他	「御園化粧品広告」（2 点）
資料等	「清方意匠 紫陽花柄浴衣」
	「清方筆 うちわ 美人・のれん」「うちわ 美人・露草」
	「清方筆 扇子 朝顔」「清方筆 扇子 芙蓉」「清方意匠 扇子 凌霄花に蜻蛉」
	「清方意匠 白地藍型染（陰陽）柏葉模様浴衣地」
	「清方意匠 白木綿地桜に蝶鳥模様浴衣地」

企画展 「《朝涼》ができるまで ―清方芸術の前半生―」



当館の代表的な収蔵品である《朝涼》は、娘と過ごす何気ない日常から想を得て、夏の朝の緑鮮やかな風景の中を歩く少女を写実的に表した作品である。清方は、白い残月や生い茂る草花、葉の上で朝焼けに光る露など自然が映し出す美を見つめ、あどけない娘の横姿を幾度も画帳に写し取った。自然と女性の美が見事に調和し清浄な雰囲気に満たされた本作は、珠玉の美人画といえる。

現実の風景と実在の人物を写実的に構成した《朝涼》の表現法は、大正の半ばから約五年かけた模索の末に見出した清方の新たな試みであった。《朝涼》により進むべき道を見出した清方は、後に代表作となる《築地明石町》の制作へとつなげていった。

本企画展では、《朝涼》に至るまでの道のりを、大正期の作品を中心に紹介した。

会期　令和 7 年 8 月 30 日（土）～10 月 19 日（日）

（開館日数：44 日）

総入館者数 2,194 人（一日平均：50 人）

関連事業

日本画ワークショップ「日本画の技法“垂らし込み”を使って、絵を描こう！」

【開催日】9 月 20 日（土）

日本画ワークショップ「日本画材を使って「月」の絵を描いてみよう！」

【開催日】10 月 18 日（土）

「鏑木清方誕生日記念イベント」

【開催期間】8 月 30 日（土）、31 日（日）

先着 50 名様に景品をプレゼントし、展示解説を実施。

日本画制作実演（実演：日本画家　只野彩佳氏）

【開催日】9 月 13 日（土）、14 日（日）

「鎌倉文化ゾーン　小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日（土）～令和 8 年 3 月 31 日（火）

主な紹介記事

「企画展《朝涼》ができるまで　清方芸術の前半生」（子どもとお出かけ情報サイト いこーよ）

「企画展《朝涼》ができるまで　～清方芸術の前半生」（広報かまくら 9 月号）

出品作品

「朝涼」「早春」「水汲」「春秋」「夕立雲」「二子山」「風景（池）」「白梅」（大正期）「大和路の或る家」「手賀沼」「柳の下に涼む娘」「金沢絵日記」（第 18 図・第 19 図）

下絵	「霽れゆく村雨」(大下絵) 「霽れゆく村雨」(小下絵)
スケッチ	「横顔の女性像」「《朝涼》のためのスケッチ」(6 点) 「京鹿子娘道成寺」 「《湯女の群れ》のためのスケッチ」「《霽れゆく村雨》のためのスケッチ」(2 点) 「大磯千畳敷」「金沢風景」(2 点) 「金沢 蓮」「金沢 瀬戸」「唐招提寺南大門前」 「長女」
『清方美人画譜』	「白壁」(原色版・下絵)
『文芸倶楽部』口絵	「あさ露」「白鳥」「鸚鵡」
『婦女界』口絵	「郊外生活」
『婦人画報』口絵	「流るゝ水」「秋の雲」
『婦人倶楽部』口絵	「新年言志」
『国民新聞』付録	「春装」
小笠原白也著作口絵	『嫁が淵』
稲岡奴之介著作口絵	『姉の仇』
資料等	「年賀葉書 兎」(葉書・図案下絵) 「日本画名作モデル告知板」(『アサヒグラフ』) 「美人画を生かして《朝涼》扮装」(『婦人世界』) 「金沢の風光 絵葉書」(10 点)

鎌倉初公開 特別展 「あの人に会える！代表作＜築地明石町＞三部作」



清方の代表作であり近代美人画の金字塔と謳われる《築地明石町》。昭和 50 年(1975)に公開されて以降、44 年もの間所在不明となったため、長年「幻の名作」とも言われてきた。令和元年(2019)に再発見され、東京と京都でのお披露目を経て、ついに鎌倉での公開となった。

清方が幼き日を過ごした明治東京の築地と明石町の地に取材した《築地明石町》は、帝国美術院賞を受賞し、本作により清方は名実ともに日本画家としての地位を確立した。そして三年後に《新富町》と《浜町河岸》を描き、古きよき明治を追懐した三部作となった。

本特別展では、＜築地明石町＞三部作を公開するとともに、清方が残し、当館が引き継いだ三部作に関する様々な資料からその魅力に迫った。また、《築地明石町》を創作の源とした他分野の芸術についてもあわせて紹介した。

会期　令和 7 年 10 月 25 日(土)～11 月 30 日(日)
(開館日数:32 日)

総入館者数 6,013 人(一日平均:188 人)

関連事業

内覧会 【開催日時】10 月 24 日(金) 12:30～

市民講座 【開催日】 11 月 15 日(土)、24 日(月・振)

「《築地明石町》の魅力に迫る！音楽と講演会」
【出演】 講演:山下裕二氏(明治学院大学教授・美術史家)
歌唱:村田望氏、ピアノ:中澤美紀氏
【開催日】11 月 1 日(土)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」
【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日(土)～令和 8 年 3 月 31 日(火)

配布資料・刊行物

鎌倉初公開 特別展「あの人に会える！代表作＜築地明石町＞三部作」解説書
(「《築地明石町》のふたりのモデル」、「明石町今昔」、「築地・明石町とのゆかり」、「《築地明石町》日本のモナリザ！？その数奇な運命をたどる」、「くらべて深まる三部作の魅力」、「《築地明石町》から派生する文化」他)

主な紹介記事

「特別展 あの人に会える！清方の代表作「築地明石町」三部作」 (11 月 6 日 朝日新聞 神奈川マリオン)
「あの人に会える！清方の代表作《築地明石町》三部作」(美術の窓 11 月号)
他 7 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
築地明石町*	昭和 2 年	絹本着色・軸	173.5×74.0	東京国立近代美術館蔵
新富町*	昭和 5 年	絹本着色・軸	173.5×74.0	同上
浜町河岸*	昭和 5 年	絹本着色・軸	173.5×74.0	同上

*国指定重要文化財

【所蔵品】

「築地明石町の詞」「築地明石町の船・詞」「自作築地川より詞書」「ふたつあちさゐ」「狐狗狸」
前田青邨作「江木定男像」
アンリ・オットマン「自転車乗りと漁船」

下絵	「築地明石町」「新富町」「大川端」「築地川界隈 佃の渡」
	「築地川界隈 明石町」(2 点) 「築地明石町 船・詞」「妓女像」(双幅)
	「新富町 浜町河岸」(小下絵)
スケッチ	「紫陽花」「雨夜の星」「築地明石町のためのスケッチ」「夜会巻」「大川雪景色」
	「浜町河岸」「帆前船」「佃のわたし」「江木ませ」(2 点)
幸田露伴著作口絵	梶田半古『天うつ浪』(第一)、鰭崎英朋『天うつ浪』(第二)、
	鈴木華邨『天うつ浪』(第三)、鏑木清方『天うつ浪』(第四)(未刊行)
口絵	小杉天外著『魔風恋風』(中編)、「ゆふ暮」(『文芸倶楽部』)
挿絵	「秋暉」(『婦人公論』)
『清方美人畫譜』	「浜町河岸の秋」
『画集 東京と大阪』	「明石町」「築地橋」(「東京 築地川」)
資料(写真パネル)	「《築地明石町》再会の祝い 山口蓬春等と共に」(原版:山口蓬春記念館)
	「泉鏡花と江木定男」(原版:泉鏡花記念館)
	「若き日の江木ませ」
資料(写真)	「江木ませ 肖像写真」(7 点)
資料	「江木ませ子 肖像写真」(『淑女画報』口絵)
	「銀座の写真館 明治～昭和」展パンフレット
	『現代作家美人画全集』日本画篇 下巻
	「築地明石町」「新富町」「浜町河岸」(代筆原稿)
	文化勲章
	「築地明石町 木版画」「築地明石町 切手」
	「築地明石町 レコード (歌)東海林太郎・(作詞)藤田まさと・(作曲)長津義司」
	「築地明石町 レコード (歌)朝丘雪路」「築地明石町 レコード (歌)島倉千代子」
	「築地明石町 CD (歌)小野由紀子・(作詞)円理子・(作曲)四方章人・(編曲)佐伯亮」
	「美人画を生かして《築地明石町》扮装 山根壽子」(『婦人世界』)
図版掲載・使用資料	『アサヒグラフ 別冊』表紙絵、『三彩』表紙絵、『読売新聞』昭和 51 年 7 月 4 日付、
	『東京新聞』サンデー版昭和 53 年、『近代日本美術事典』函

企画展 「冬美人 ―押絵羽子板とともに―」



明治時代以降、西洋の文化が入ってきた日本では、洋装化も徐々に進み、昭和中期、戦後を迎えた頃には幅広い年代層の日常着として定着した。西洋化が進む時代の流れの中、着物姿の女性たちは、アクセサリーやショールなどの服飾品をあわせたり、西洋の最新のデザインを着物の文様に取り入れたりするなどしておしゃれを楽しんだ。

清方が挿絵画家として活躍した明治末から大正期にかけて、雑誌や書籍の巻頭を飾る口絵には、小説のヒロインや季節にあわせた装いに身を包んだ女性の着物姿が多く描かれた。また、新年号として刊行される 1 月号の雑誌や新聞の元日号では、豪華な色刷りの口絵や付録が、新年を迎える喜びに彩りを添えて当時の人々を楽しませた。

本企画展では、冬の装いを描いた雑誌や書籍の口絵を中心に、清方が意匠を手がけた着物や年賀状などを、名押絵師・永井周山が意匠化した押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」とともに紹介した。

会期　令和 7 年 12 月 5 日(金)～令和 8 年 1 月 12 日(月・祝)
（開館日数:29 日）

総入館者数　1,949 人（一日平均:67 人）

関連事業

「おしゃれコーデグランプリ」
【開催期間】12 月 5 日(金)～1 月 12 日(月・祝)
来館者の方が口絵 6 点の中からおしゃれだと思う着こなしを描いた 1 点を選び投票

日本画ワークショップ「日本画材を使って、扇形の絵を描いてみよう！」
【開催日】12 月 14 日（日）

「新春初売り」「新春福引き」
【開催期間】初売り:1 月 4 日（日）～1 月 9 日（金）、福引き:1 月 4 日（日）～1 月 12 日（月・祝）
来館者全員に景品が当たる福引きと、叢書図録と一筆箋の特別価格での販売を実施

鎌倉市川喜多映画記念館との連携事業「ゆく年くる年展示解説ツアー」
【開催日】12 月 26 日（金）、1 月 7 日（水）、12 日（月・祝）

山口蓬春記念館との連携事業「鎌倉・葉山　日本画家の旧居めぐり 鏑木清方と山口蓬春」
【開催期間】12 月 5 日（金）～1 月 25 日（日）

「鎌倉文化ゾーン　小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」
【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日（土）～令和 8 年 3 月 31 日（火）

主な紹介記事

「美人画の世界観　羽子板に　鎌倉・鏑木清方記念美術館で企画展」（12 月 29 日　朝日新聞）　他 6 件

出品作品

「舞妓」「道成寺」「風景（里）」「襟おしろい」「春や昔」「落葉焚く」「金地扇子」
山川秀峰「春駒」

スケッチ　「長女」「宝船」「雪兎」「芸妓」（2 点）「寒椿」「ふきのとうと南天」「茅ヶ崎からの富士」
「静浦からの富士」「黒縮緬地桜流水紋羽織デザイン画」

『清方美人画譜』	「幕間」
『文芸倶楽部』口絵	「春を待つ」「紅さす女」「雛壇の下」「餅むしろ」（口絵・下絵）
『講談雑誌』口絵	「初夢（清方畫譜の一）」「炬燵（清方畫譜の十二）」
『文芸界』口絵	「都大路」
『新小説』口絵	「虎の門　見立十二姿の内」
『婦人世界』口絵	「元日の朝」「新夫人」「さくら色」
『婦人公論』口絵	「歌留多會の夜」
『婦人画報』口絵	「雪の兎」
『大正婦人』口絵	「初東風」
『苦楽』表紙	「松ノ内」（表紙・下絵）「春を待つ」（表紙・下絵）
『淑女畫報』口絵	「春の人」
『婦人倶楽部』口絵	「新年言志」
『少女界』口絵	「初雪」「クリスマス」
『少女界』表紙	「鉢の梅」
『少年界』表紙	「クリスマス」
『少女倶楽部』表紙	「クリスマス」
渡辺霞亭著作口絵	『渦巻』（続編）、『勝鬨』（中編）
菊池幽芳著作口絵	『小ゆき』（後編）
小栗風葉著作口絵	『新かつら下地』
岡鬼太郎著作口絵	『花柳風俗三筋の綾』
その他口絵	「年始まわり」「楽しき贈り物」
『文芸倶楽部』附録	「時代美人風俗双六」
	鰭崎英朋・鏑木清方合作新年大附録『松の内』
『少女界』附録	鏑木清方・富田秋香合作「少女修学旅行双六」
『少女世界』附録	「少女出世雙六」
『東京朝日新聞』附録	「風俗美人画（一）松の内」
着物	「黒縮緬地桜流水紋羽織」「黒縮緬地扇面に梅菊紋留袖」
風呂敷	「扇面に竹と梅」「凧と梅」
資料等	永井周山作・押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」
	清方意匠年賀状（6 点）

企画展「見る･愛でる 小さな芸術 ―鏑木清方の卓上芸術―」



大正・昭和の時代、本や雑誌に挟まれた口絵などは、展覧会へ出かけずとも日常の暮らしのなかで楽しめる小さな芸術だった。肉筆においても、色紙や短冊、画巻や画帖など、卓上に置いて本を読むように手に取り、間近で親しく鑑賞してほしいという思いから、清方は印刷物をも含めた小さな作品を「卓上芸術」と呼んだ。

大作の競演の場とも言える大展覧会に出品を重ねつつも、清方は好んで小さな作品を作り続け、本来 1 点しかない肉筆画が、大きさ、価格ともに手頃な印刷物となって頒布されることを「卓上芸術」の理想のかたちとみていた。

本企画展では、清方が自分らしさを存分に発揮した「卓上芸術」作品を、泉鏡花の小説を絵物語にした《註文帖》や、歌舞伎の「寺子屋」を手のひらサイズの折帖に描いた《寺子屋画帖》などの所蔵品の中から紹介した。

会期 令和 8 年 1 月 17 日(土)～3 月 1 日(日)

(開館日数:32 日) ※設備更新に伴う休館 2 月 2 日(月)～9 日(月)

総入館者数 1,744 人(一日平均:55 人)

関連事業

石版画ワークショップ「石版画の仕組みを体験してみよう！」

【開催日】2 月 15 日(日)

「市民講座」

【開催日】2 月 21 日(土)

初心者向け展示解説「日本画鑑賞はじめの一歩」

【開催日】2 月 22 日(日)

山口蓬春記念館との連携事業「鎌倉・葉山 日本画家の旧居めぐり 鏑木清方と山口蓬春」

【開催期間】12 月 5 日(金)～1 月 25 日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日(土)～令和 8 年 3 月 31 日(火)

主な紹介記事

「見る・愛でる 小さな芸術 ―鏑木清方の卓上芸術―」(鎌倉逍遥 1-2 月号 vol.68)

「見る・愛でる小さな芸術 ―鏑木清方の卓上芸術」(鎌倉朝日 1 月 1 日号)

他 4 件

出品作品

「寺子屋画帖」「夏の女」「深沙大王」「金色夜叉の絵看板」「金沢絵日記」「朝夕安居　夕」「孤児院」「嫁ぐ人」
「夏の柳井戸（柳乃井戸）」「栗をむく娘」「姉様人形」「寫生」「砧」「美人図」（色紙）「註文帖」
「大川端」（《喜禮集》のうち）※初公開「漁夫」（《臥遊帖》のうち）※初公開

短冊	「白梅」「母子」「童」「句」（2 点）「於駿東写」（寄託）
下絵	「日高川　道成寺」「玄宗皇帝」「下町に灯のともる頃（今様絵詞の会）」
	「高野聖（今様絵詞の会）」
未定稿	「金の井の李月夜（二）（今様絵詞の会）」
	泉鏡花著「日本橋」（『苦楽』名作絵物語）

泉鏡花著作口絵	『無憂樹』「胡蝶之曲」（『新小説』）
幸田露伴著作口絵	『不蔵庵物語』
田村松魚著作関連	『脚本家』（口絵・表紙絵）
普及版	『註文帳画譜』（一、二、四、五、六、七、九、十一図・同図詞書）
	『にごりえ画譜』（第二図、詞書「にごりえを絵にして」）
	「東京　築地川」（『画集　東京と大阪』）（表紙、「作者」）
	「柳の井」（『絵入本　御濠端』）
木版画	「濠端十二景　柳の井」
口絵原画	「高野聖（『現代名作集　別巻』）」「たけくらべ（『現代名作集』）」
絵葉書原画	「乳姉妹、天うつ浪、金色夜叉」「不如帰、魔風戀風、湯島詣」
『苦楽』名作絵物語	「日本橋」（未定稿）

企画展「清方の肖像画 ―肖(に)せるということ、いい絵であること―」



清方は四季折々の草花や自然と女性の美しさを融合させた美人画を多く描き、日本画壇で高く評価されたが、史伝小説を読んだことをきっかけに伝記に深い興味を寄せ、次第に実在の人物を表す肖像画への関心を高めていった。昭和 5 年（1930）、自身を画家の道へと導いた落語家・三遊亭圓朝の姿を描き、肖像画制作の魅力に引き込まれ、自身の師・水野年方の師匠である浮世絵師・月岡芳年や、母を介して関わった役者・市川粂八、芝居の席で見かけた徳川慶喜など多くの人物を描いた。

肖像画を手がけるにあたり、清方が意識していたことは、人物の容姿が似ていることはもちろん、その絵が芸術として成り立っていることだった。そのために伝記や作品を読み解き、ゆかりのある人に話を聞くなど、丹念な取材をもとに制作に取り組み、その人物の生き様や人格を表そうと努めた。

本企画展では、清方の肖像画の魅力とその制作過程を紹介した。

会期　令和 8 年 3 月 7 日（土）～4 月 12 日（日）
（開館日数:32 日）

総入館者数　1,768 人（一日平均:55 人）

関連事業

「春休み親子鑑賞」
【開催期間】3 月 26 日（木）～4 月 5 日（日）
小・中学生及び同伴者観覧無料

木版画ワークショップ「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」
【開催日】4 月 4 日（土）、5 日（日）

「鎌倉文化ゾーン　小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」
【開催期間】令和 7 年 4 月 26 日（土）～令和 8 年 3 月 31 日（火）

配布資料・刊行物

「春休み親子鑑賞ワークシート」（小・中学生対象解説書、無料配布）

主な紹介記事

「企画展「清方の肖像画　～肖せるということ、いい絵であること～」」（鎌倉観光公式ガイド）
他 3 件

出品作品

「慶喜恭順」「秋宵」「先師の面影」「大蘇芳年」「比伊奈」「清子四歳像」「曲亭馬琴」「女役者粂八」
「高砂」※初公開

下絵	「小説家と挿絵画家」「慶喜恭順」「三遊亭圓朝像」「小竹博士」「崔承喜」「女役者粂八」 「藤間政弥像」 「初雁の御歌」(小下絵) 「初雁の御歌」(顔貌部分訂正稿)
スケッチ	「藤懸静也」「曲亭馬琴のためのスケッチ」「朗羅のためのスケッチ」「小竹無二雄」 「崔承喜」「崔承喜(衣裳)」(2 点) 「三遊亭圓朝像のためのスケッチ」 「七代目常磐津文字大夫」「七代目常磐津文字大夫(烏帽子)」「秋宵のためのスケッチ」 「照」「人形遊び」「ままごと遊び」「小石川植物園の桜」「小石川植物園の水仙」「志濱の筍」

小栗風葉著作関連	『恋女房』(口絵・表紙絵) 『麗子夫人』(口絵)
渡辺霞亭著作口絵	『栗山大膳(下編)』
菊池幽芳著作口絵	『売花娘』
松本亀松著作口絵	『藤間政弥』
『文芸倶楽部』口絵	「鸚鵡」「都鳥」「花吹雪」
『講談雑誌』口絵	「光のどけき(清方畫譜の四)」「娘ざかり」
『講談世界』口絵	「千代田の大奥」
『婦女界』口絵	「李の花」
『少女界』口絵	「花の蔭」
『少女界』表紙	「看梅」
『少女世界』口絵	「散歩」
『少年界』表紙	「桃の花」
『少年界』口絵	「彩色」「ボート、レース」「妙義山」
口絵	「上野の花」
『九州日報』付録	「醍醐の花見」
書籍装丁	小竹無二雄著『菱の実』
資料等	肖像写真「一葉一家」(『全集樋口一葉　第 3 巻』) 肖像写真「樋口一葉」(パネル) (原版:清方旧蔵写真)